

上京区の今を知ろう

～住民円卓会議報告～

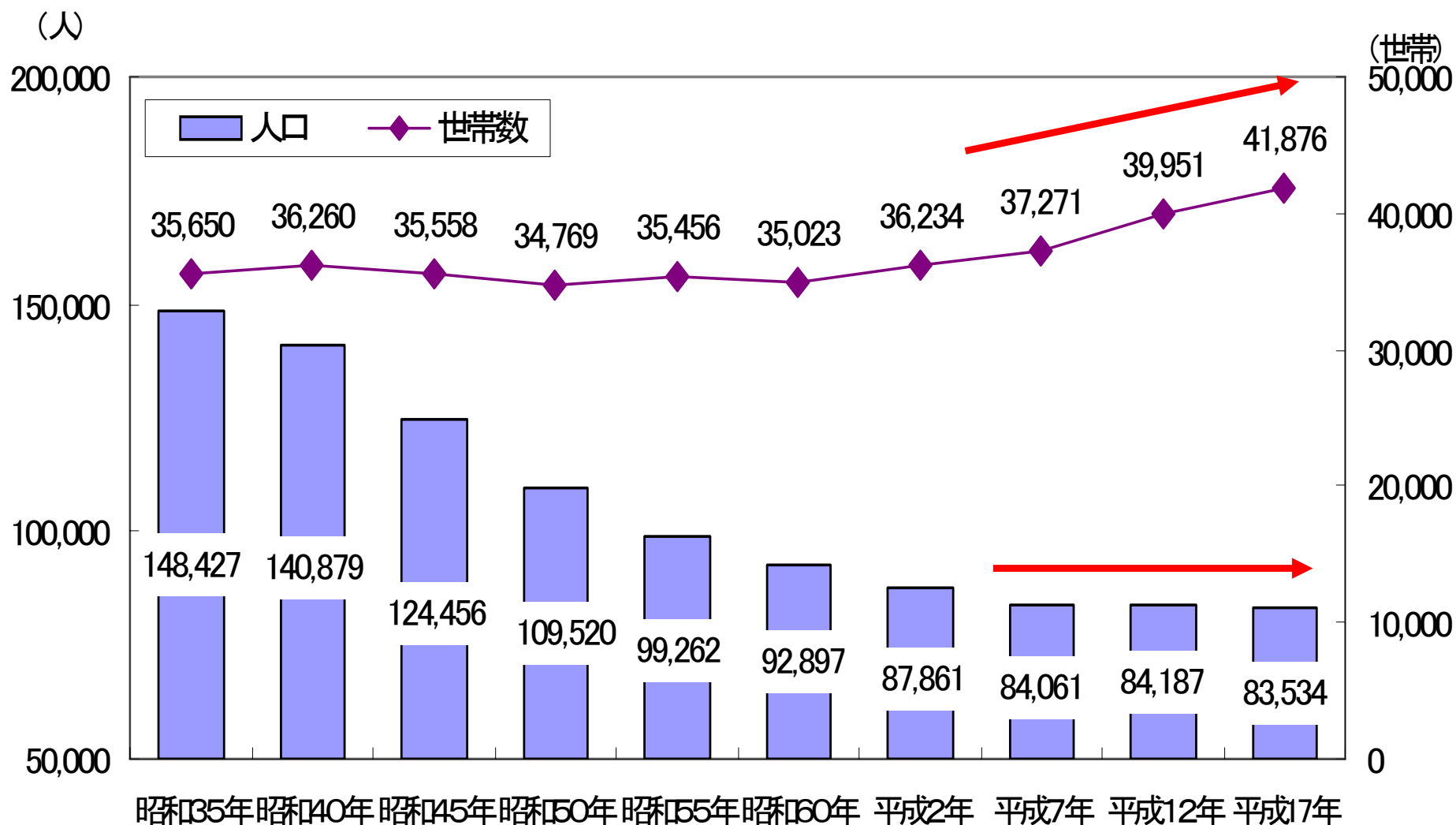


上京区役所

人と暮らし



◎人口は50年間で半減するも平成7年以降横ばい。世帯数は約17%増。



◎平成7年以降，西部地域で人口・世帯数減
堀川今出川を中心に人口世帯数増。

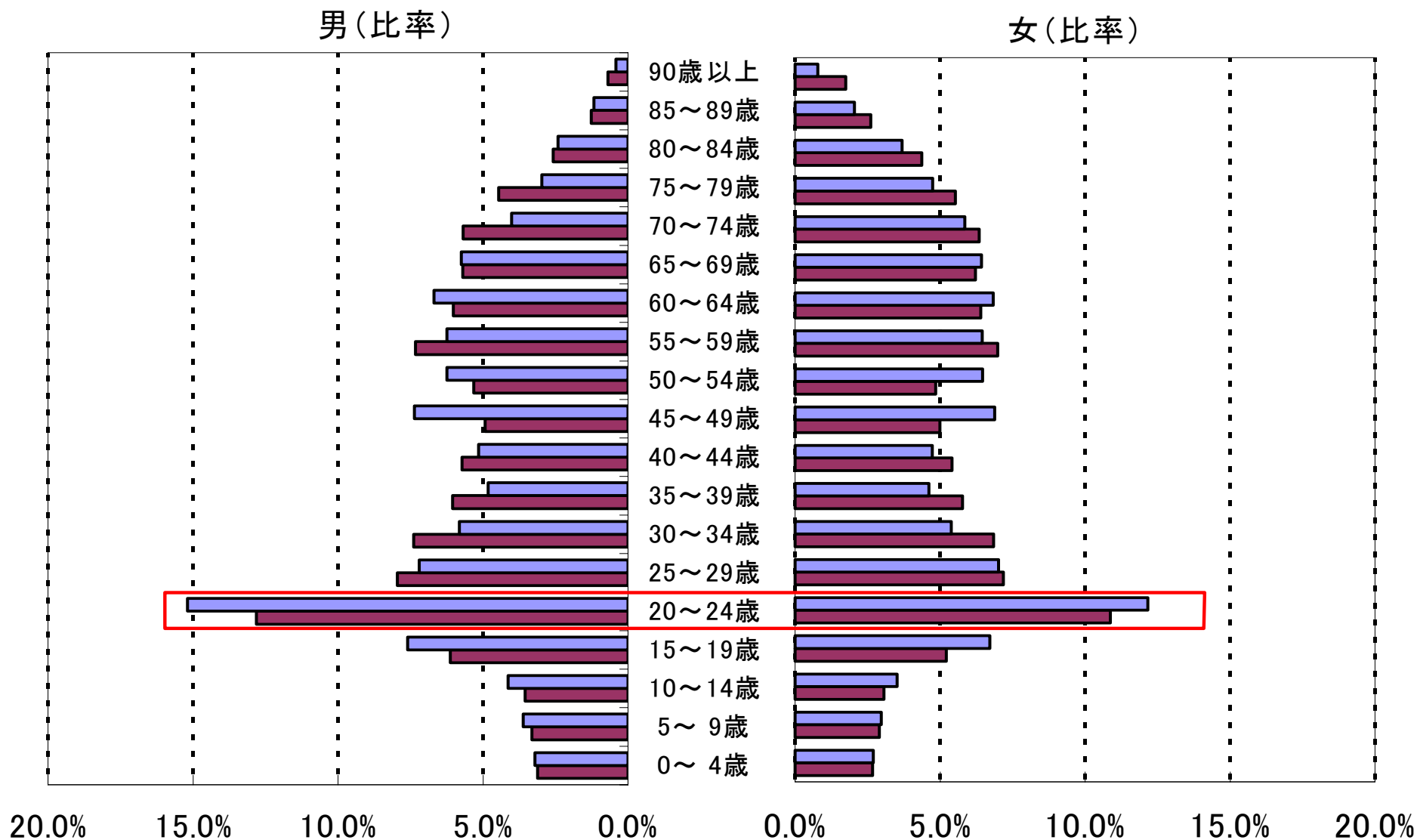
		翔鷲	仁和	桃菌	西陣	上京
平成 7年	人口	7,996	12,227	3,453	2,794	84,061
	世帯数	3,399	5,309	1,734	1,227	37,271
平成 17年	人口	7,174	10,844	4,277	3,132	83,534
	世帯数	3,366	5,244	2,346	1,582	41,876
増減	人口	89.7%	88.7%	123.9%	112.1%	99.4%
	世帯数	99.0%	98.8%	135.3%	128.9%	112.4%

◎20歳～24歳が最も多く約12%。

45歳～49歳は5%。

上京区(H7)

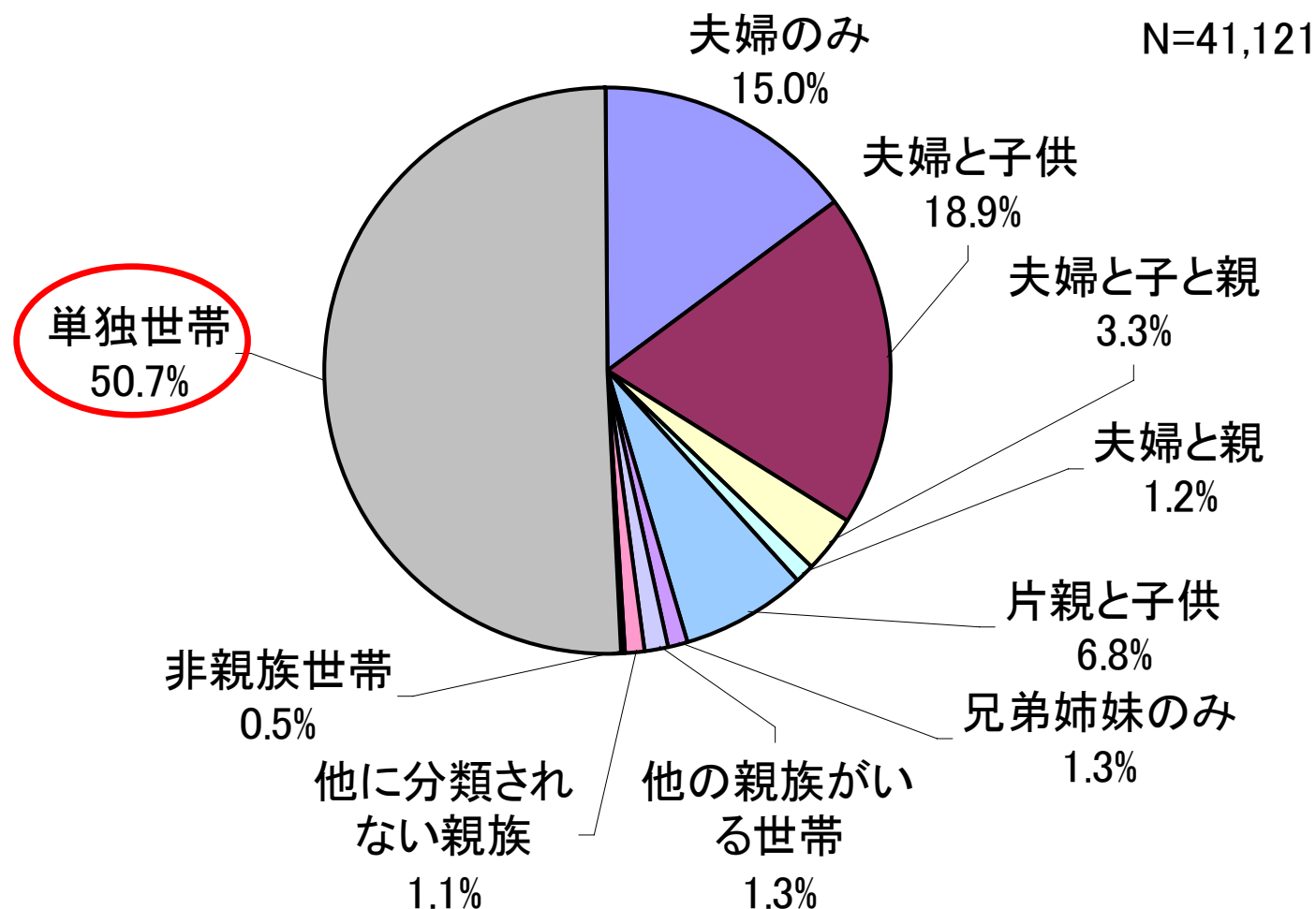
上京区(H17)



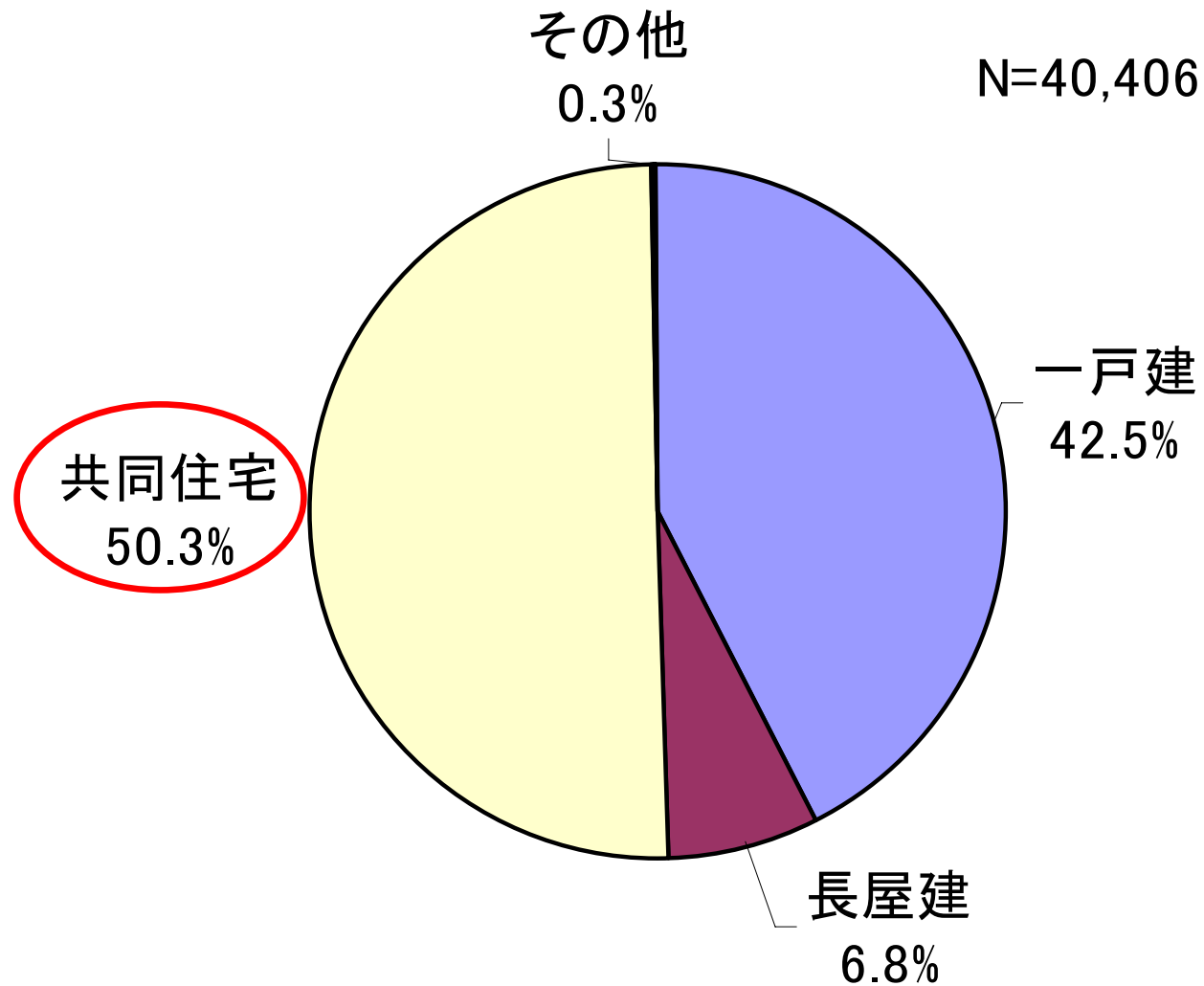
◎10年間で65歳以上の人口は3%増加。

比率	平成7年	平成12年	平成17年
15歳未満	10.0%	9.6%	9.2%
15歳 ～64歳	69.6%	67.5%	66.3%
65歳以上	20.4%	22.2%	23.6%

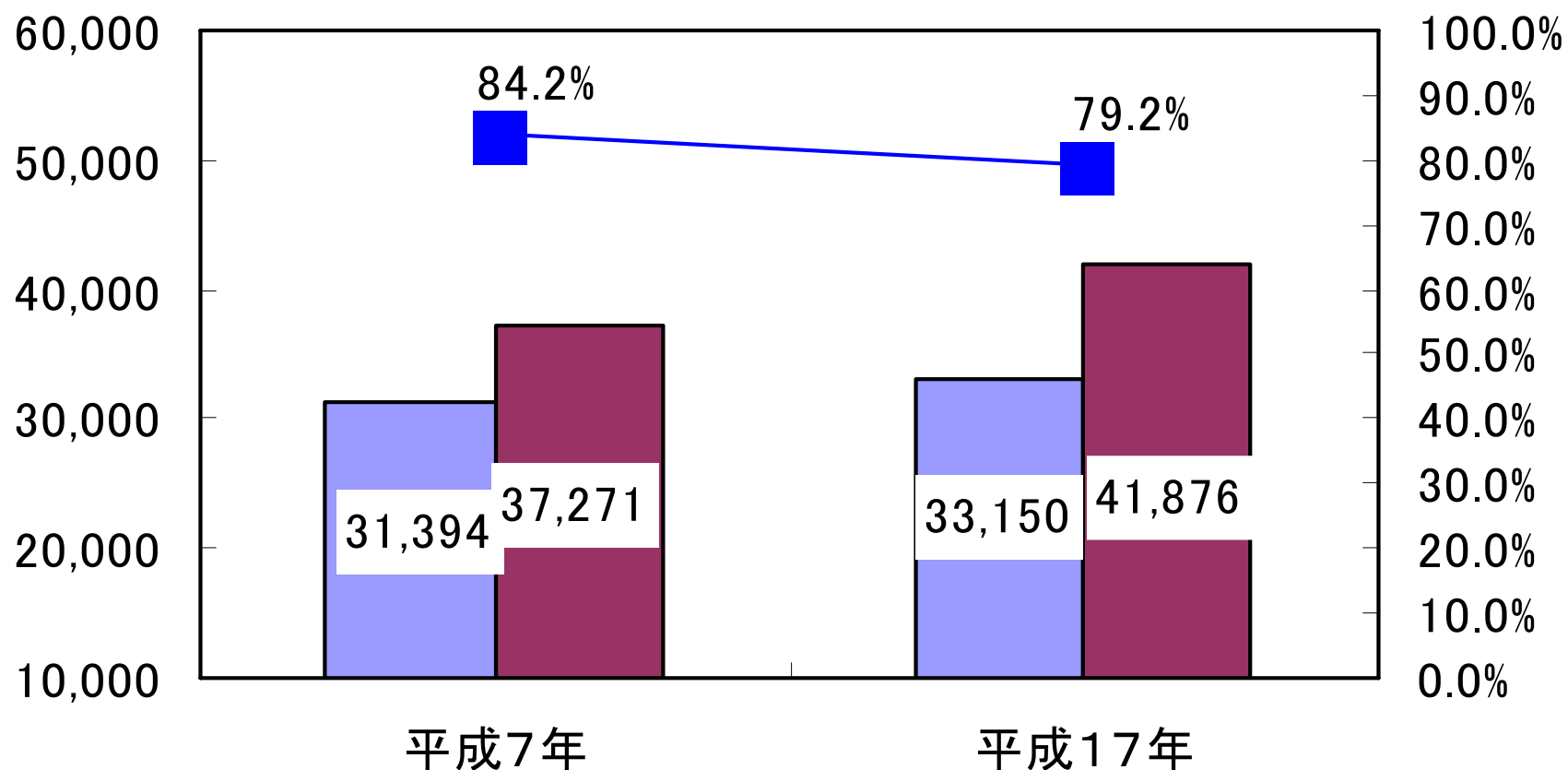
◎単独世帯は約50%，夫婦と子供世帯19%，夫婦のみ世帯15%



◎共同住宅居住世帯数が半数を超えている。



◎市政協力委員担当世帯数の割合は、 5%減少。



市協担当世帯数

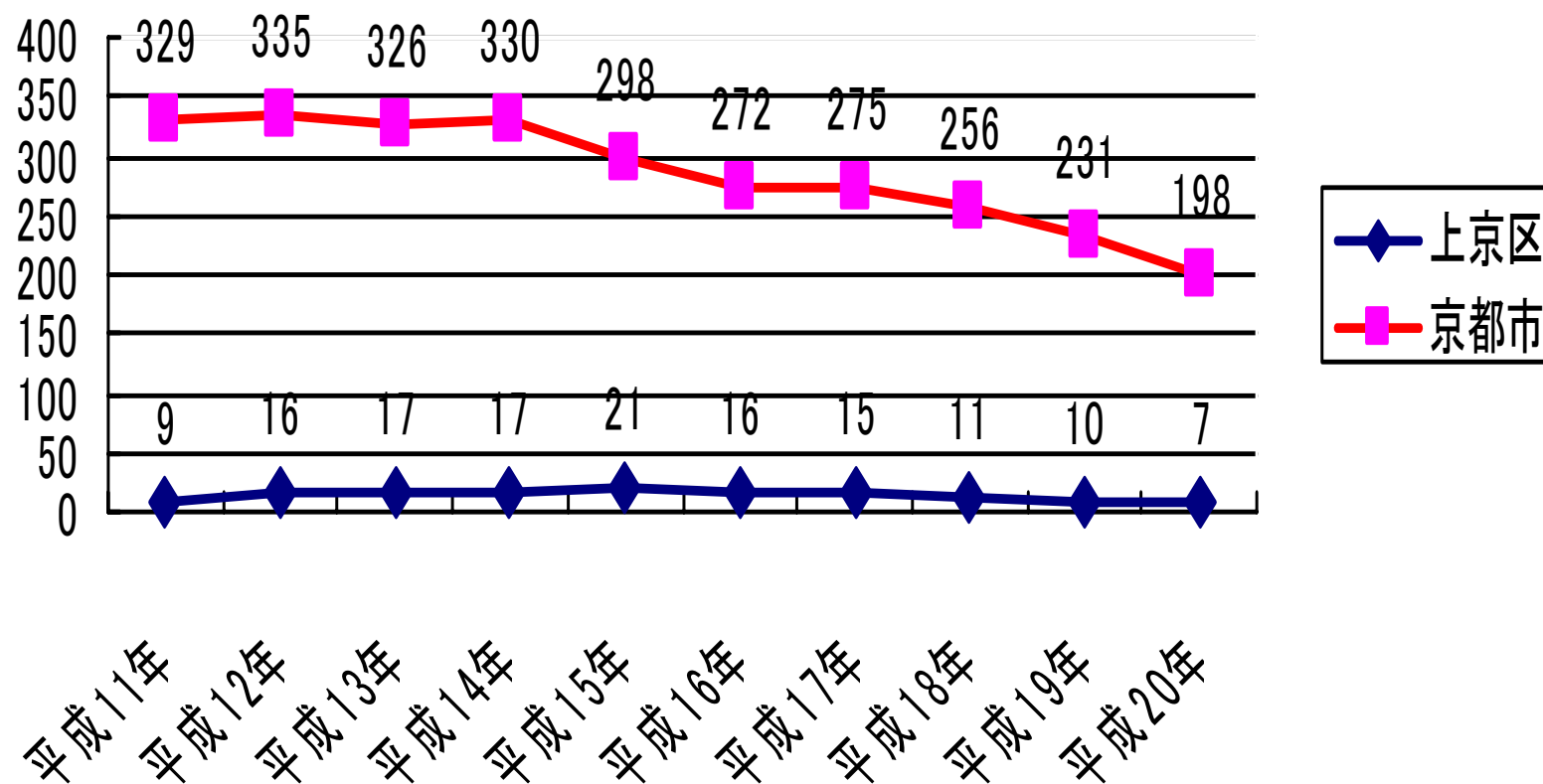
全世帯数

市協担当世帯比(全世帯数比)

防災・防犯

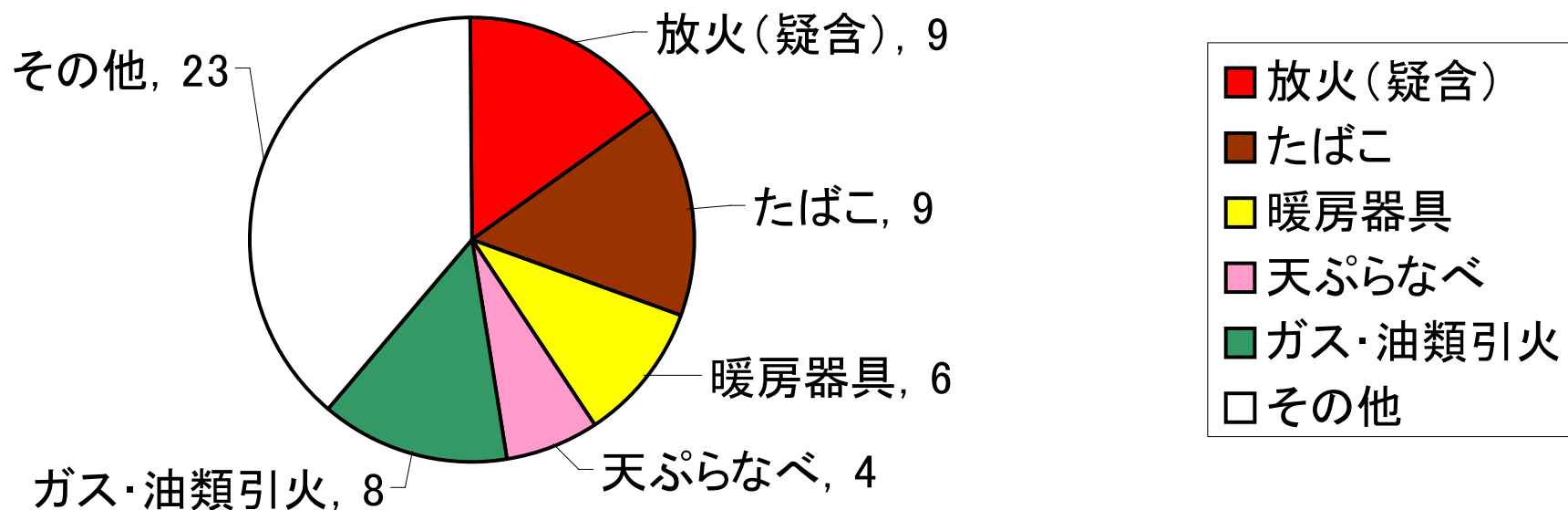


◎平成20年，市内の火災は198件。前年に
比べ33件減少，死者は16人で6人減少。
上京区内は5年連続火災減少。

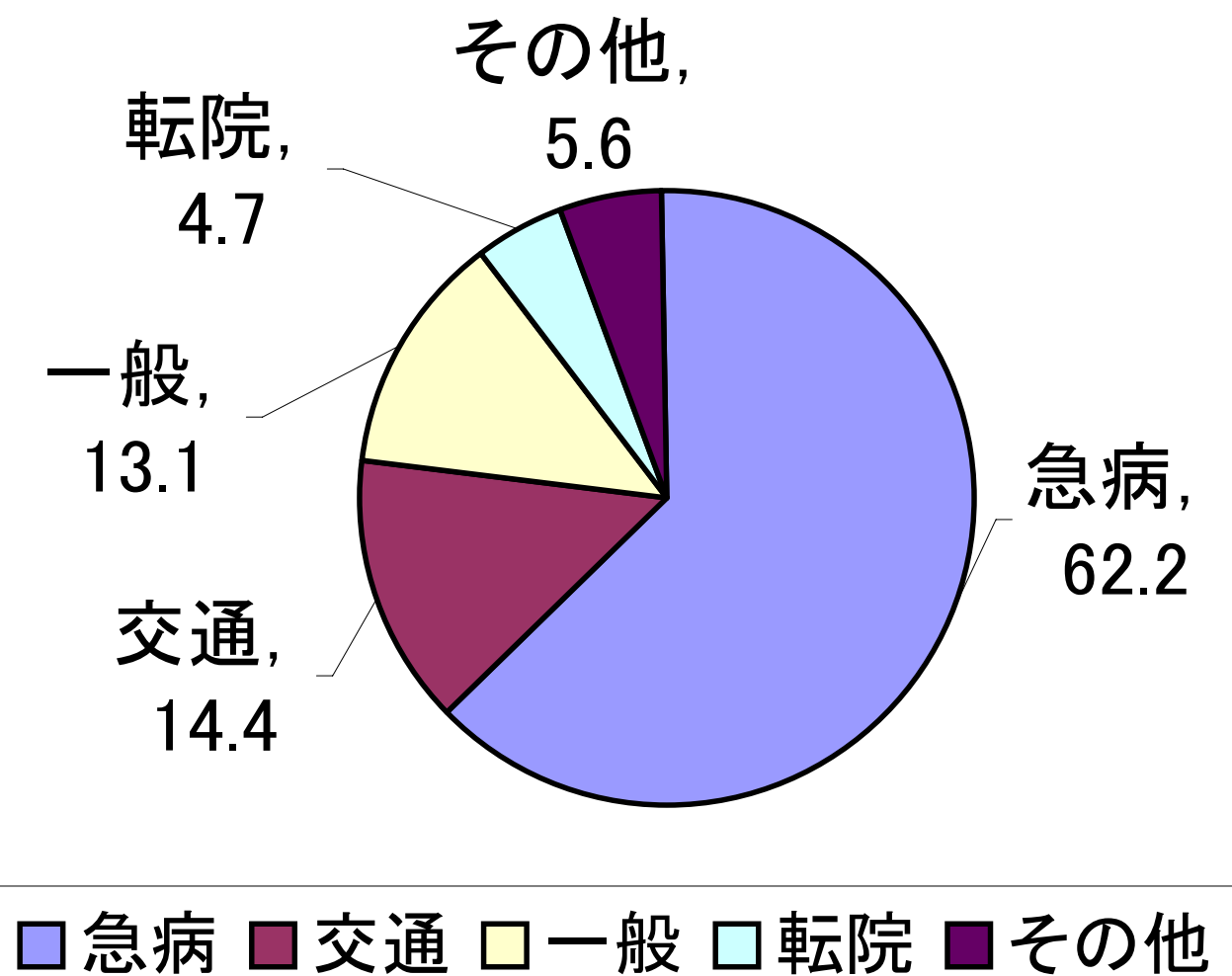


◎放火，たばこ，暖房器具を原因とする火災が減少し，天ぷらなべ火災が増加（全市）

上京区 過去5年間の主な火災原因



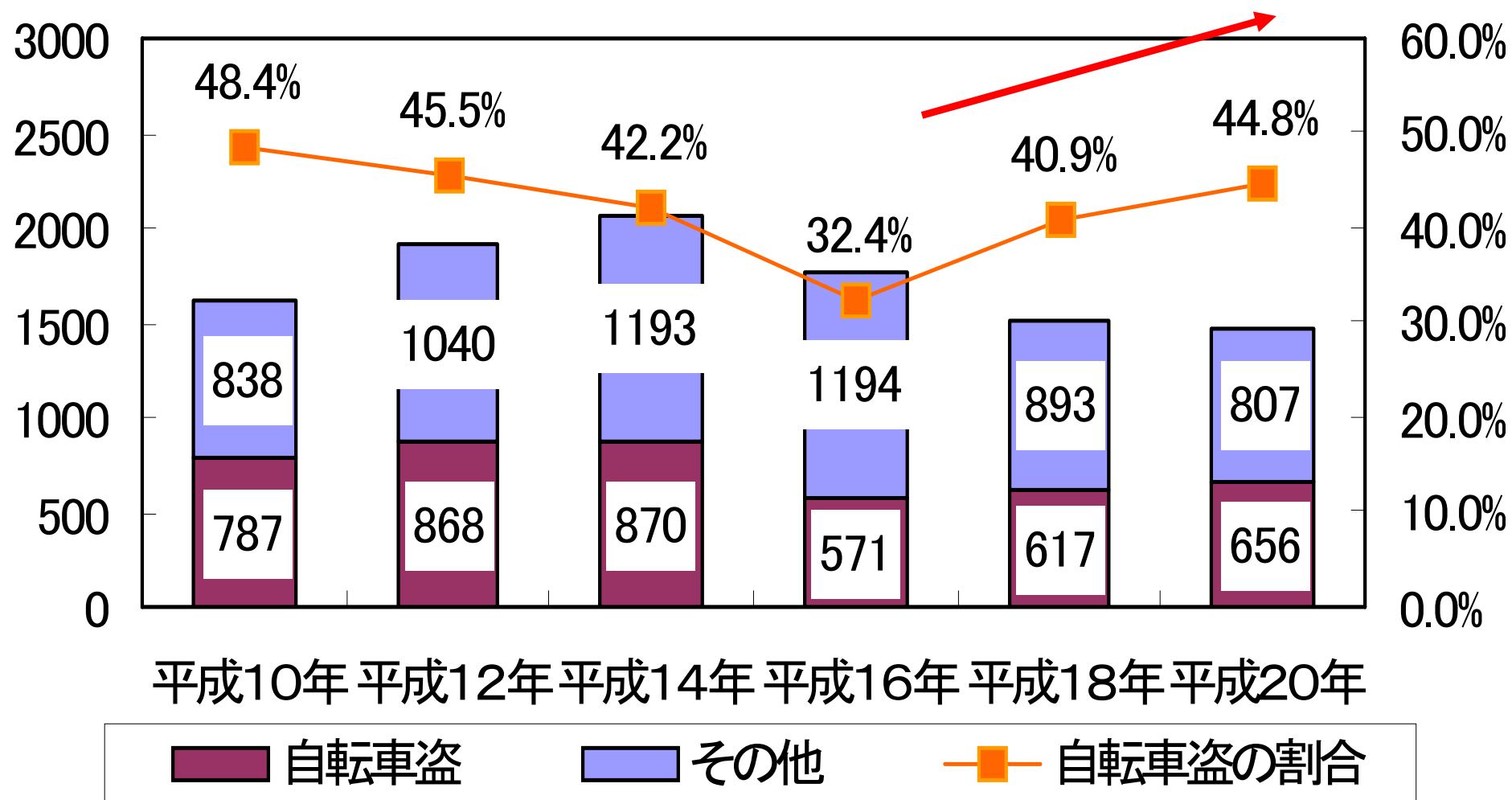
◎救急出動の62.2%は急病 (京都市・平成19年)



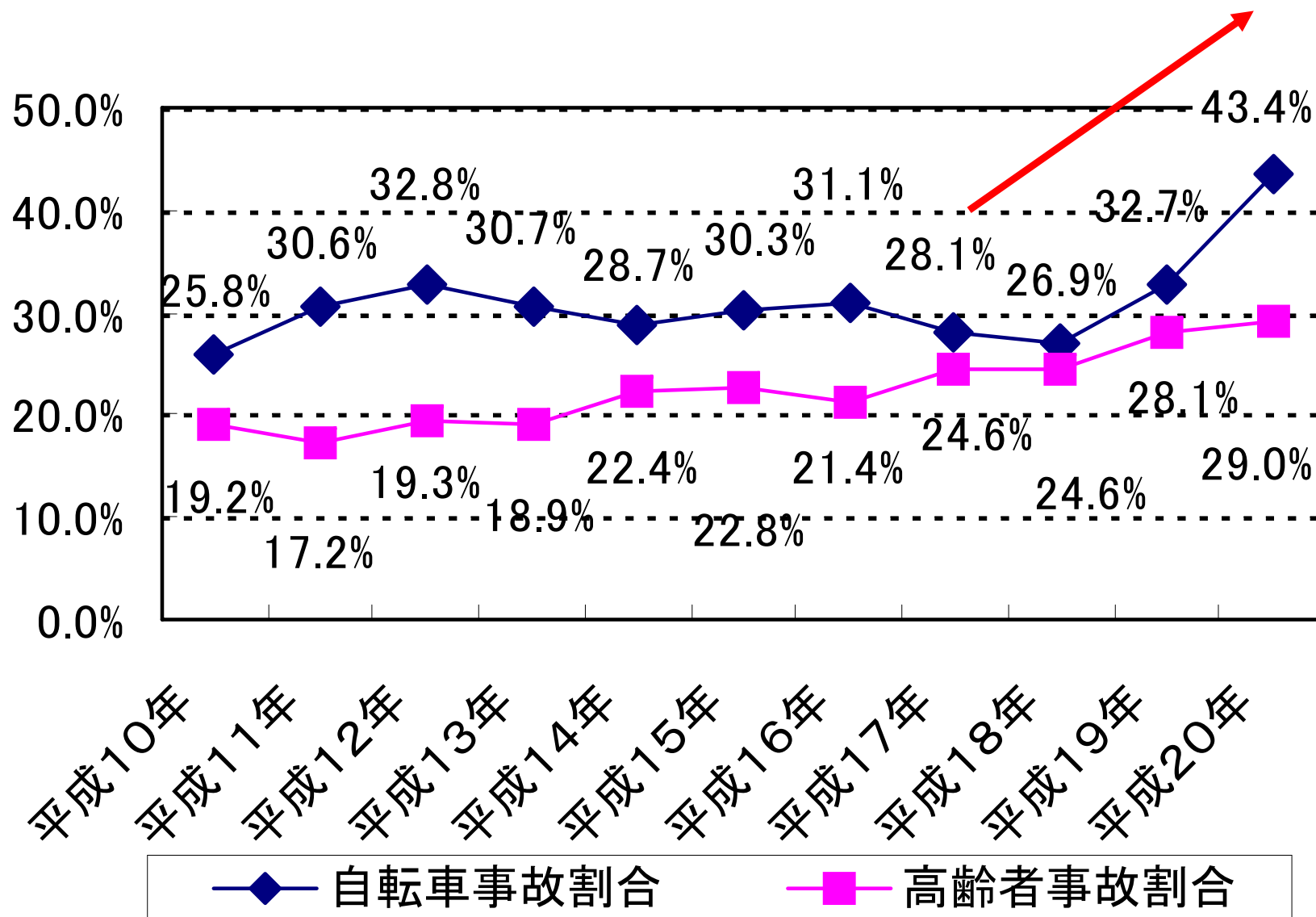
◎災害時に自力で避難できない人が、
約2,800人（人口の3.4%）居られる。
（平成20年8月末）

- 1 在宅の要介護3以上の者
- 2 在宅の65歳以上の単身世帯又は要援護者のみで構成される世帯の者でかつ、要支援1～要介護2までの者
- 3 障害者 ①在宅の障害程度区分4以上の者、②在宅の身体（1級、2級）、療育（A判定）の障害者手帳を所有する単身世帯及び要援護者のみで構成される世帯の者
- 4 緊急通報システム事業登録者

◎犯罪発生件数は減少傾向にあるが、身近な自転車盗の割合が増加。



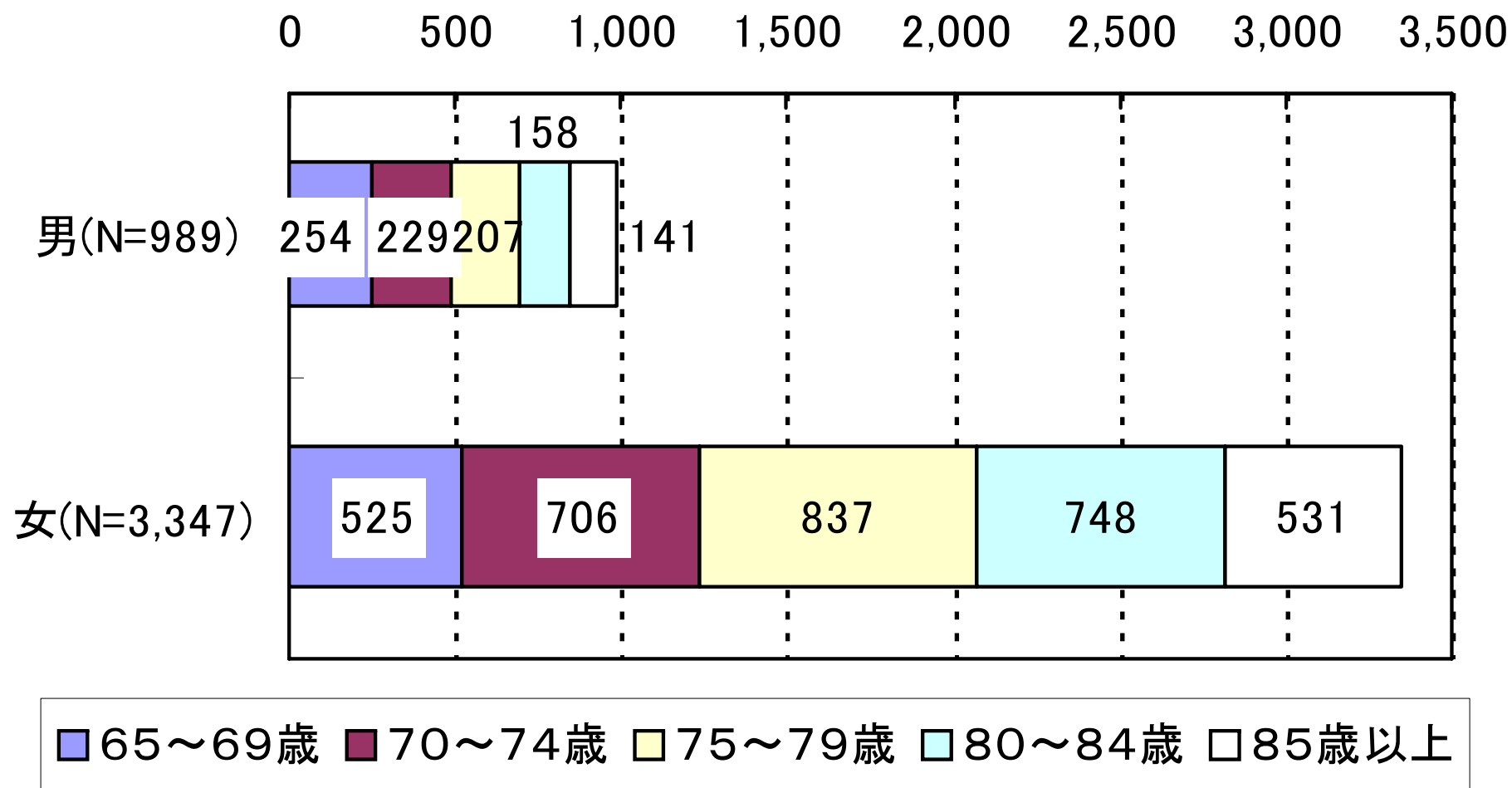
◎交通事故は減少傾向にあるが、自転車事故・高齢者事故の割合が増加。



福祉と健康

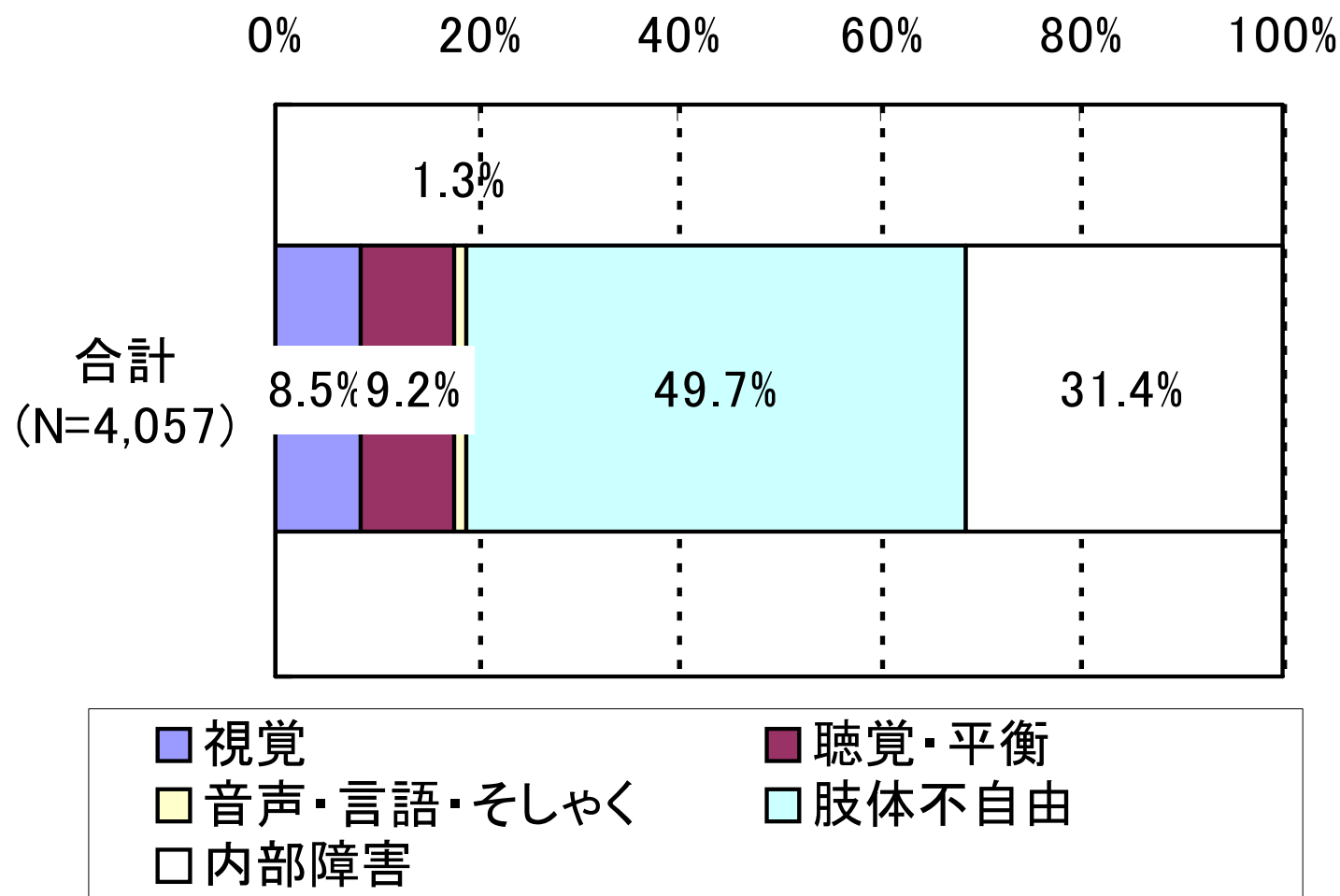


◎全世帯の10%（4,336世帯）が65歳以上の高齢単身世帯（平成17年）。

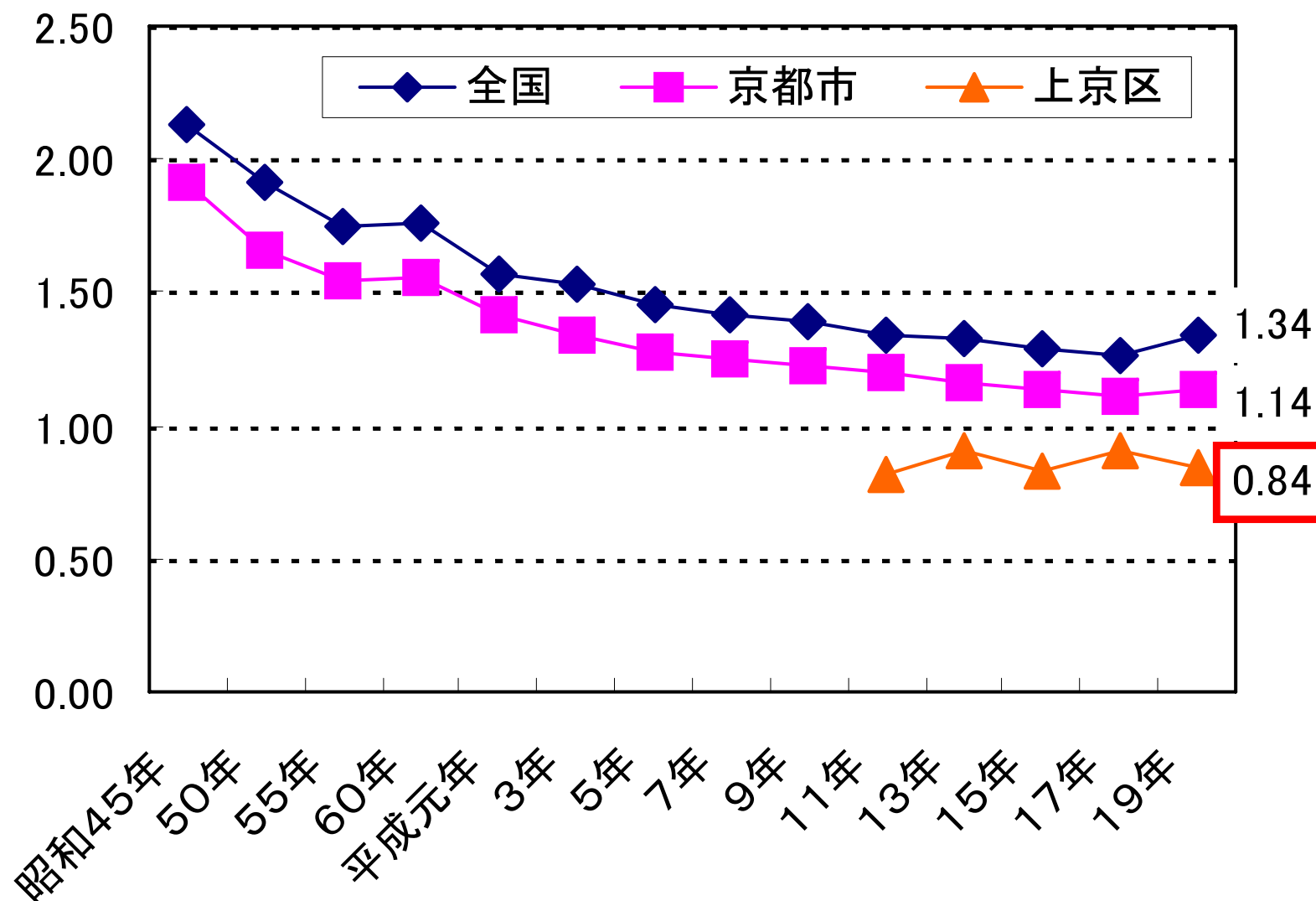


◎半数が肢体不自由障害

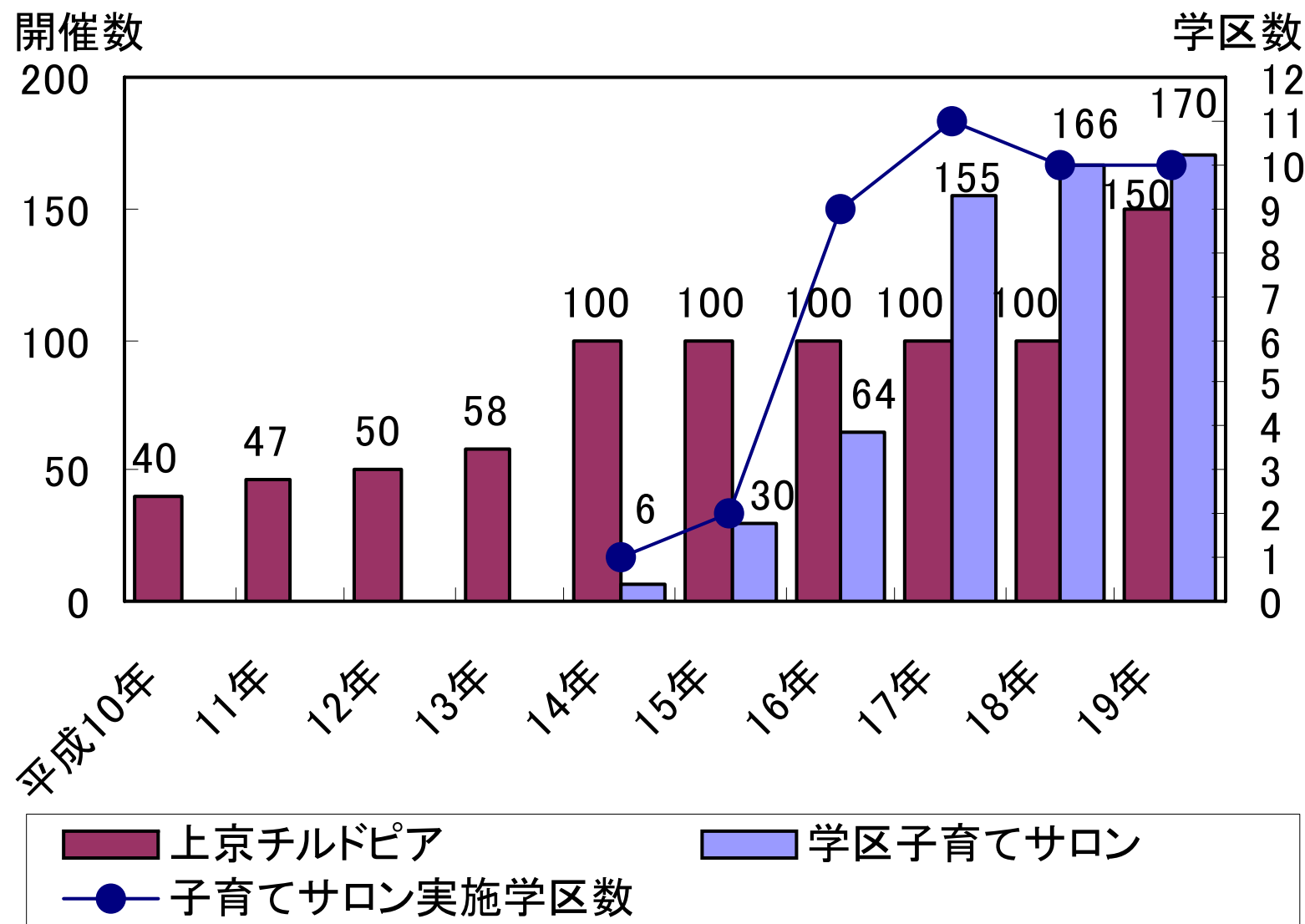
【身体障害者手帳内訳】（平成19年3月）



◎人口の維持に必要な合計特殊出生率は2.08。上京区は市内で最も低い0.84。

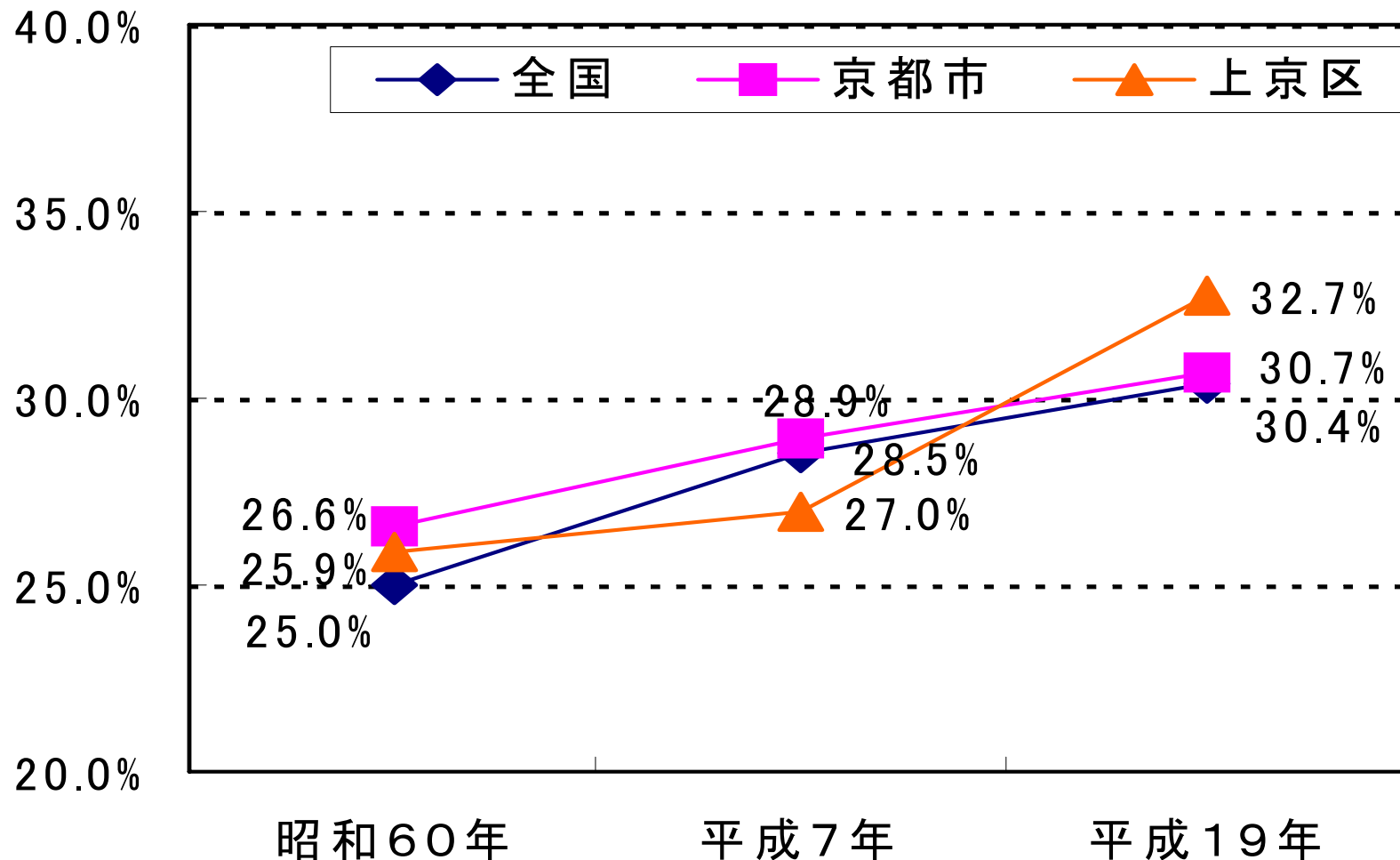


◎子育てサロンなど地域ぐるみの支援策

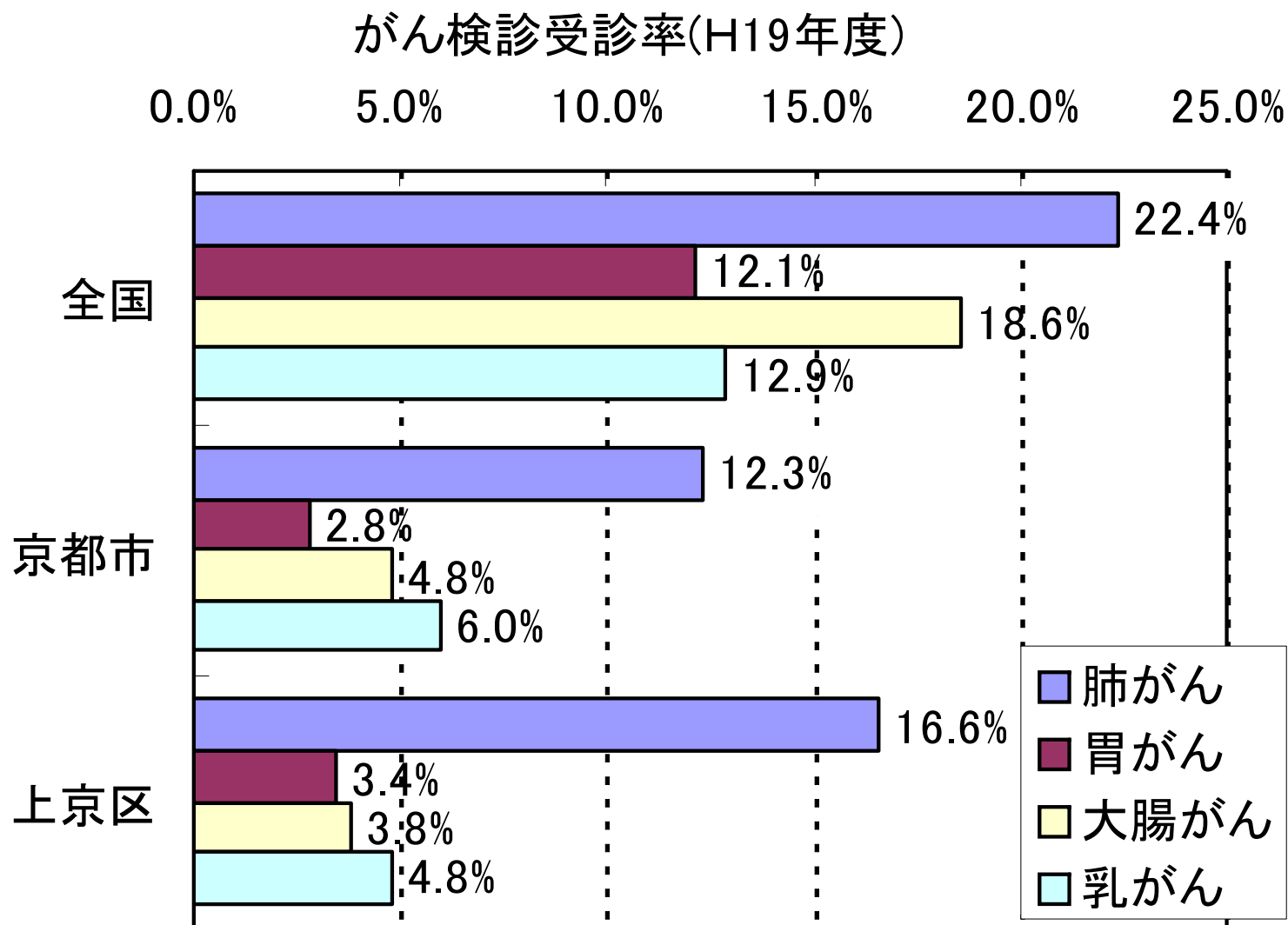


◎がんによる死亡者の割合が30%を超えた。

がんによる死亡者の割合の推移



◎低い、がん検診受診者数。



住民円卓会議での主な意見



【人口・世帯の推移と自治】

- 結婚しても住み続けられるよう、居住環境を改善できる施策が必要。
- 和装産業に代わる新しい産業の振興・育成を図り、就業環境を整える。
- 大学・PTAとの連携など、多様な世代の参加による地域活動を活発にする。
- マンションオーナーや管理会社と防災訓練や自治会参加について協議する仕組みが必要。

【防犯・防災】

- 顔見知りが多いことが、防災や防犯に役立っている。
- 学区防災訓練は重要。町内合同の防災教室・訓練を地元で開催してもらいたい。
- 消防団は、若いスタッフが継続して活動できる体制整備が必要。
- 救急知識・応急手当の普及啓発とAEDを活用できる環境整備が必要。

- 災害時要支援者の把握には、向こう三軒両隣など地域による把握が大切。
- 自転車マナーの違反が多い。厳しい指導や取組が必要。
- 自転車専用レーンなど、歩行者が安心して歩ける交通環境を整備して欲しい。

【福祉・健康】

- 独居老人には、隣近所の声掛けや支え合いが大切。
- 敬老会名簿などを活用して独居老人を把握するなど、工夫が必要。
- 段差の解消や歩道幅員の拡幅など、歩きやすい道路環境の整備が必要。
- ヘルパー派遣や介護施設などの情報を個人・町内に伝わるようにする。

- 子育てサロンなどの多世代交流の機会を創出する。
- 食育や「すこやか教室」など地域ぐるみでの活動を促進する。

【その他】

- 商店が減り，夜店もなくなり人出がなくなった。賑わいをつくり出す魅力が必要。
- 他都市の人にとって京都ブランドの魅力は大きい。町家や仕事を紹介する窓口があれば住みたい人がやってくる。
- かつて京都にあった四季折々のイベントや地域資源を活用できないか。
- 上京区は学生の町であった。学生を温かく迎え入れることで地域経済を活性化。
- 西陣は職住接近の町だった。新しい職住接近のまちづくりプランが必要。

まちと賑わい



◎西陣織 10年で出荷額は半減,
企業数は3割減, 従業員数は4割減

	平成8年	平成17年	増減	参考 平成2年
総出荷金額 (億円)	1,529	708	46.3%	2,795
企業数	690	479	69.4%	849
従業員数	7,738	4,402	56.9%	9,859

＊西陣機業調査の概要

◎販売額，事業所数，従業者数ともに減少。

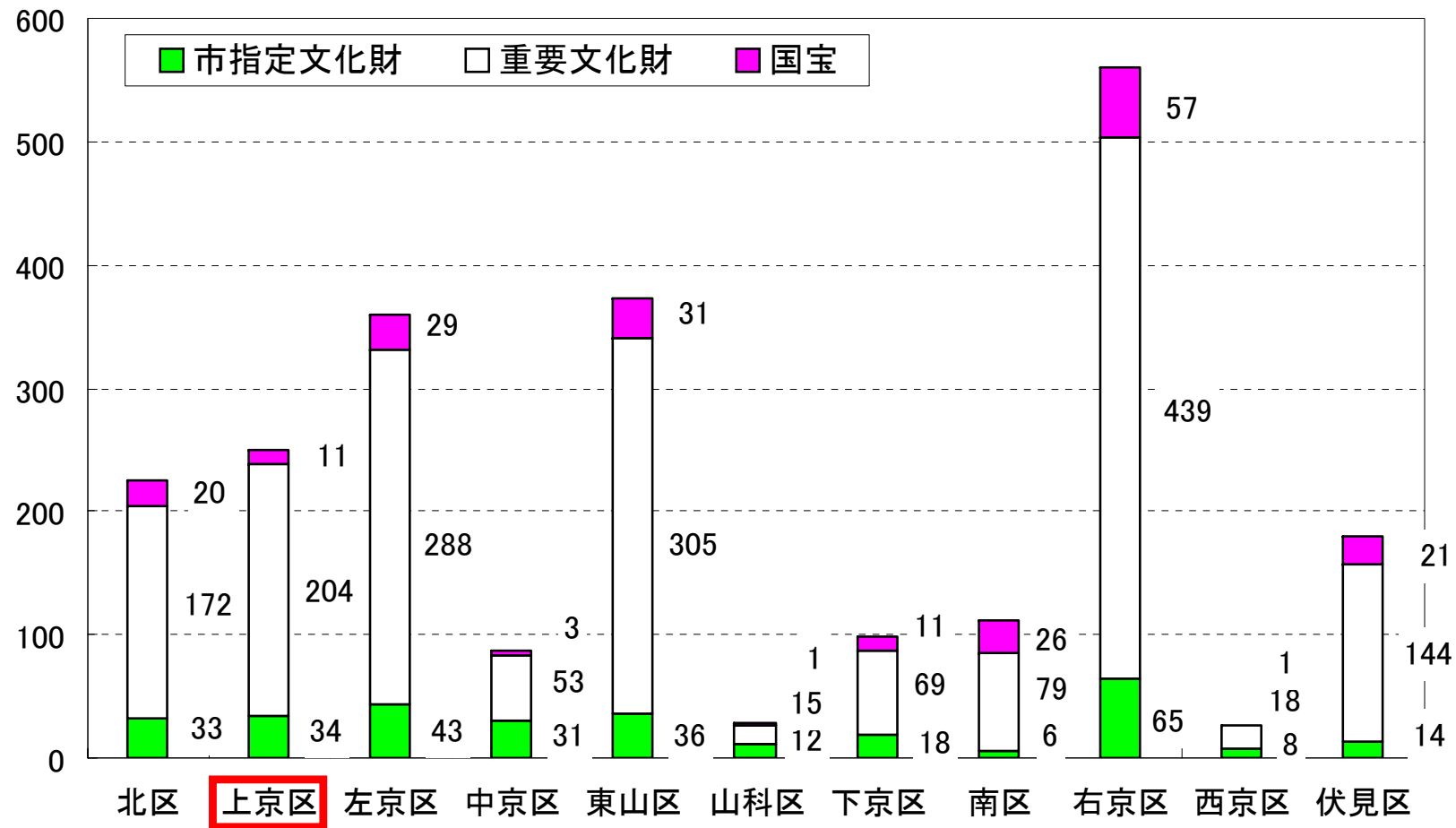
		平成9年	平成19年	増減
年間商品販売額 (億円)	上京区	1,055	706	66.9%
	京都市	23,071	20,137	87.3%
事業所(商店)数	上京区	1,910	1,372	71.8%
	京都市	20,257	16,834	83.1%
従業者数	上京区	7,295	6,299	86.3%
	京都市	106,810	110,389	103.4%
中心性指数	上京区	0.799	0.621	77.7%
消費流出入額 (億円)	上京区	-267	-431	162.2%

◎観光客になじみの薄い上京区

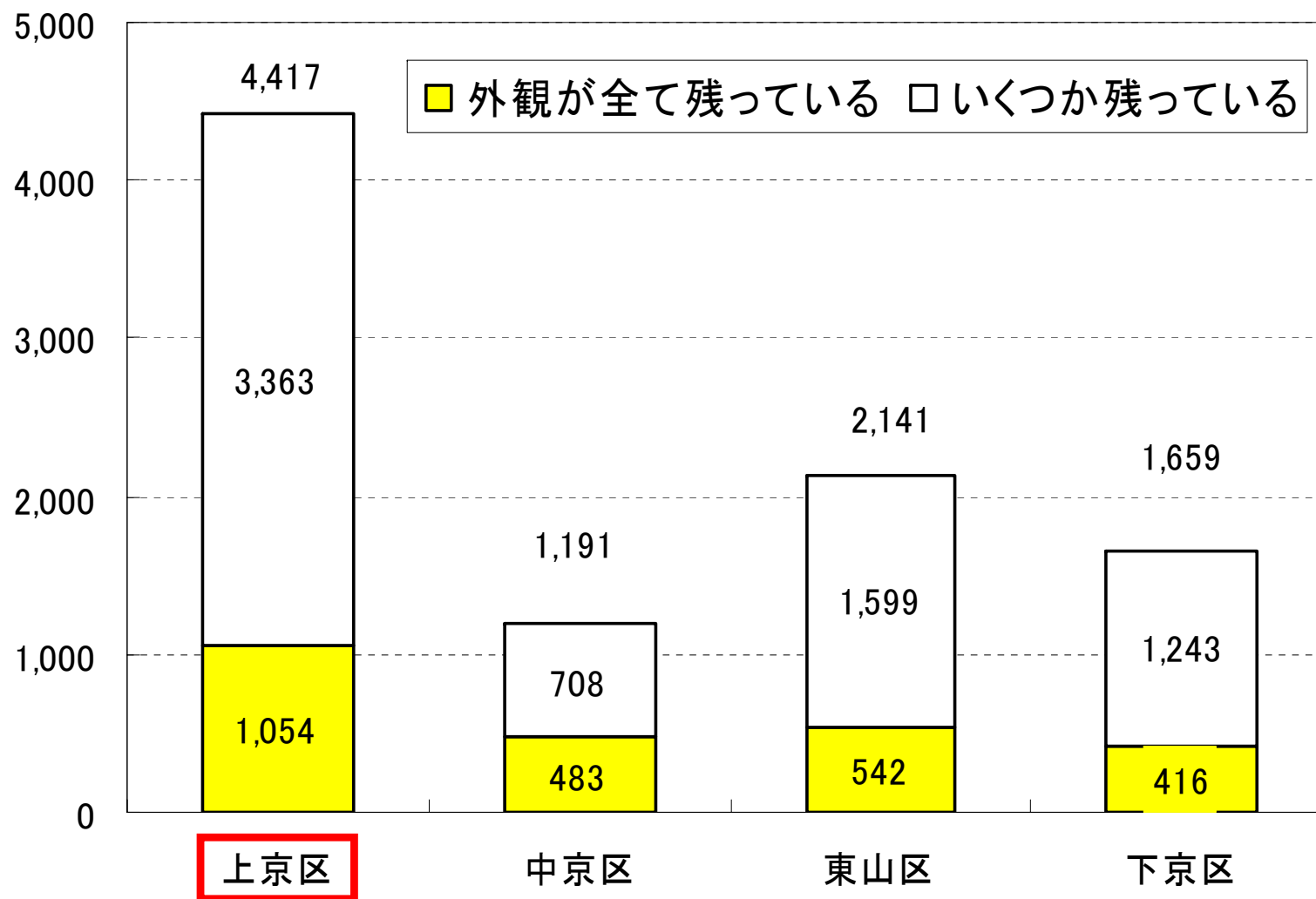
	平成10年		平成20年度	
1位	清水寺	20.8%	清水寺	20.4%
20	京都駅ビル	20.7	嵐山	16.2
3位	嵐山	16.8	金閣寺	11.4
4位	銀閣寺	15.3	銀閣寺	9.4
5位	金閣寺	14.7	南禅寺	9.0
	13位 二条城	8.0	8位 二条城	6.8
	20位 御所	6.2	21位 御所	3.1

＊京都市観光調査年報(複数回答あり)

◎少なくない文化財



◎上京区に多く残る町家



平成10年度京町家まちづくり調査

住民円卓会議で見えてきた課題

- 自治

少子高齢化，地域活動の担い手の減少，単身世帯とマンション居住世帯の増加による地域力の低下

- 防災・防犯

少ない火災・交通事故発生件数，良い治安を維持するために，地域で継続した活動ができる体制の維持

- 福祉・健康

少子高齢化の進行。特に，地域が育む子供の育成と単身高齢世帯の増加に対応した支援体制の構築

- 地域振興

地域産業の停滞，人口の減少，高齢化，空き店舗の増加など，まちの賑わいの低下



ご静聴ありがとうございました